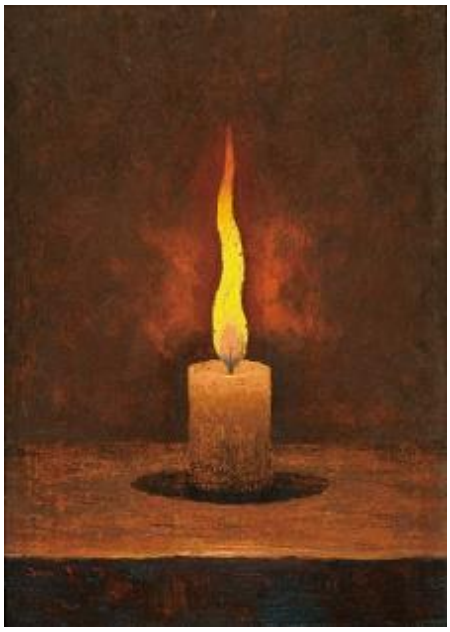
奈良県立美術館

プレスリリース／2021 年 02 月 25 日



「蝋燭」大正時代（1912-26）福岡県立美術館蔵

特別展

生誕 130 年記念

髙島野十郎展

The 130th Anniversary of His Birth TAKASHIMA YAJURO

2021 年 4 月 17 日(土)－5 月 30 日(日)

主催　奈良県立美術館、読売新聞社

写実の極地、やるせない人間の息づき－

展覧会の趣旨	洋画家・髙島野十郎(1890-1975)は、徹底した写実による独自の画境、孤独と旅を愛した生涯を送った作家として、没後に光が当てられ、今日では幅広い人気を得ています。 本展では、2020 年に生誕 130 年を迎えたこの作家の画業を紹介いたします。 野十郎は福岡県久留米市の酒造業を営む家に生まれ、東京帝国大学農学部水産学科を首席で卒業するも画業の道へ進みます。独学で絵を学び、渡欧したのちもパリを拠点に郊外の風景写生に取り組む日々を送り、帰国後は久留米、東京、そして千葉県柏市へと移り住み、各地を旅しながら作品を描き続けました。その作風には仏教的な思想が根ざしていると考えられていますが、野十郎はたびたび奈良にも訪れ、風景画を残しています。 本展では、代表作を含む野十郎の豊富なコレクションを誇る福岡県立美術館の所蔵作品を中心に、初紹介の作品もあわせた総数 115 点により、多くの謎に包まれながら、見るものをひきつけてやまない野十郎の絵画世界の魅力をご紹介します。
出品件数（予定）	約 114 件（出品件数の合計）
展示構成	1 章　青年期 野十郎の仏教的な世界への関心は、10 代の作品にすでに表れており、その後 30 代までの作品に特徴的な、暗い色調とうねるような形態には、同時代の岸田劉生ら草土社の画家たちの影響を見ることができます。また青年期には謎めいた雰囲気の自画像を数点描いています。 2 章　滞欧期 1930 年に渡欧した野十郎は、パリを拠点に美術館や教会を見て回り、写生に励む日々を過ごしました。滞欧中の作品には、それまでの緻密な描写とは異なる素早い伸びやかな筆遣いが見られ、初めて見る西洋の風景を前にした野十郎の感動が率直に表れています。 3 章　戦前期 帰国後久留米の生家に戻った野十郎は、庭の一角に小さなアトリエを建て、制作に打ち込みました。1936

年頃に再び上京し青山に居を構えてからは、2 年ごとに個展を開催するなど充実した東京時代を過ごします。終戦直前には、姉がいた福岡県八女市へ一時疎開もしますが、この戦前期には密度の濃い風景画や静物画を多数手がけています。

4 章　戦後期
70 代に入った野十郎は静かな環境を求めて千葉県柏市に移り、全国へ写生の旅に出かけました。戦後期の作品には、対象の細部まで緻密に描きながら構図にゆるぎない安定感がある、野十郎の写実のスタイルの完成を見ることができます。

5 章　光と闇
蠟燭や月、太陽をテーマとした連作は、野十郎の画業を最も特徴づけるものです。仏教などに裏付けられた独自の思想が、光と闇という対極にある現象の追求へ導いたのでしょう。野十郎が描いた様々な光は、見る者の心の内まで照らし出すかのような静かな力に満ちています。

▼展覧会の基本情報と来館案内

会場	奈良県立美術館 〒630-8213 奈良県奈良市登大路町 10-6 TEL 0742-23-3968／FAX 0742-22-7032／テレフォンサービス 0742-23-1700 美術館公式ホームページ　http://www.pref.nara.jp/11842.htm
会期・ 休館日	2021 年 4 月 17 日(土)－5 月 30 日(日) 月曜日（5 月 3 日は開館)、5 月 6 日（木）
主催	奈良県立美術館、読売新聞社
特別協力	福岡県立美術館
企画協力	TNC プロジェクト
後援	久留米市、ＮＨＫ奈良放送局、奈良テレビ放送株式会社、株式会社奈良新聞社、西日本旅客鉄道株式会社、近畿日本鉄道株式会社、阪神電気鉄道株式会社、奈良交通株式会社、奈良県商工会議所連合会、奈良県商工会連合会、奈良県中小企業団体中央会、株式会社南都銀行、(一社)日本旅行業協会、（一社)全国旅行業協会奈良県支部、(一社)国際観光日本レストラン協会、(一財)奈良県ビジターズビューロー、（公社）奈良市観光協会、奈良県旅館・ホテル生活衛生同業組合
観覧料	一般＝1000 円、大・高生＝800 円、中・小生＝600 円 ※新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、団体割引の設定はありません ※各種割引については次の取り扱いとなります

奈良トライアングルミュージアムズの半券等の提示	上記観覧料から 200 円引
ミュージアムぐるっとパス・関西 2021	一般観覧料　　〃

※次の方は会期中無料でご観覧いただけます
①身体障がい者手帳・療育手帳・精神障がい者保健福祉手帳をお持ちの方と介助の方 1 人
②外国人観光客（長期滞在者・留学生を含む）と付添の観光ボランティアガイドの方

交通案内	近鉄・奈良駅　1 番出口から奈良公園に向かって徒歩 5 分 JR・奈良駅　東口バス乗り場から奈良交通バスにて 5 分「県庁前」下車 100 メートル

▼同時開催および会期中の催し

同時開催： 連携展示 ※観覧無料	≪連携展示≫　開村記念プレ展示「なら歴史芸術文化村と周辺の歴史文化」 2022 年春に開村する文化村では、文化財を未来へと伝えるための様々な取り組みを実施します。本展では、文化財模型や映像、写真パネルで文化村の魅力を紹介します。

お問い合わせ：なら歴史芸術文化村整備推進室　TEL:0742-27-8073
WEB: http://www.pref.nara.jp/46785.htm

※会場：当館 1F ギャラリー

会期中の催し
（当館主催事業）

◆講演会「謎多き画家・髙島野十郎について」
講師：西本匡伸氏（福岡県立美術館　学芸員）
日時：５月２日（日）14 時～（約 90 分）
場所：当館１F レクチャールーム（30 席・要事前申し込み ※応募者多数の場合は抽選により決定）

◆美術講座「野十郎の描いた世界」
講師：深谷　聡（当館学芸員）
日時：5 月 23 日（日）14 時～（約 90 分）
場所：当館１Ｆレクチャールーム（30 席・要事前申し込み ※応募者多数の場合は抽選により決定）

［講演会・美術講座の参加申し込みについて］
聴講のお申し込みは 4 月 17 日（土）から E メールまたは電話にて受け付けます。申し込み期間・方法の詳細は当館ホームページ（http://www.pref.nara.jp/11842.htm）などでご確認ください。

◆当館学芸員によるギャラリートーク
日時：4 月 24 日・5 月 8 日・29 日（いずれも土曜日）14 時～・展示室にて
申し込み不要、開始時間に合わせて展示室前にお集まりください

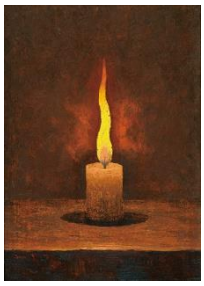
※上記イベントへの参加には観覧券が必要です。
※新型コロナウイルス感染症の拡大状況により、イベントの実施・内容を変更する可能性があります。

取材のご依頼
広報に関するお問い合わせ

奈良県立美術館（展覧会企画担当：学芸員　深谷 聡）
〒630-8213 奈良市登大路町 10-6
TEL 0742-23-3968　FAX 0742-22-7032
museum@mahoroba.ne.jp

広報用画像リスト

◇展覧会広報用に下記の画像を用意しております。ご希望の画像の番号（1～5）をお知らせください。
◇必ず下記のキャプションもご掲載ください。
　ただし、ルビ（ふりがな）を付ける・付けないの判断と西暦・和暦の選択は各メディアに委ねます。
◇掲載にあたり作品部分のトリミング、文字載せはご遠慮ください。

No.	画像	キャプション	作品について	備考
1		「蝋燭」 大正時代（1912-26） 油彩・板 22.7×15.6 ㎝ 福岡県立美術館蔵	数多く描かれた蝋燭の、現存する中では最も古い時期のもの。うねりながら上昇する炎と、周囲の陽炎がドラマチックに描かれている。	
2		「からすうり」 昭和 23(1948)年以降 油彩・画布 53.0×41.0 ㎝ 個人蔵	蝋燭と並ぶ野十郎の代表作。画面の上部から中心線に沿って垂れ下がるからすうりの安定感ある構図と、密度に溢れた描写が作者の透徹した視線を感じさせる。	
3		「空の塔　奈良薬師寺」 昭和 30（1955）年 油彩・画布 53.2×41.0 ㎝ 個人蔵	仏教に深い関心を寄せていた野十郎は、たびたび奈良を訪れている。薬師寺東塔の姿を忠実に描きながら、その背景に広がる空にまで余念のない描き振りの作品。	
4		「静物」 昭和 22（1947）年 油彩・画布 33.5×45.4 ㎝ 柏市蔵	ブドウ、トマト、そしてカリンだろうか、戦後間もない時期で、こうした実りは貴重なものであっただろう。恵みに感謝するような丹念でみずみずしい描写である。	
5		「太陽」 昭和 36(1961)年以降 油彩・キャンバスボード 21.8×27.2 ㎝ 福岡県立美術館蔵	「光」そのものの象徴としての太陽を描いた作品。周囲の松の木はシルエットで描かれ、風景画の域を超えた描写となっている。	

奈良県立美術館◇〒630-8213 奈良市登大路町 10-6◇TEL 0742-23-3968　FAX 0742-22-7032◇http://www.pref.nara.jp/11842.htm